

SPICA 特集 (1)	巻頭言 SPICA が切り拓くサイエンス	長尾透・尾中敬	674
	次世代赤外線天文衛星 SPICA の概要	山村一誠・金田英宏・尾中敬	676
	SPICA が革新する銀河・ブラックホール進化サイエンス	泉拓磨	684
ニュートリノ天文学特集 (2)	IceCube によるニュートリノ天文学の展望	石原安野・吉田滋	694
天球儀	礼文島金環日食 —実現に向けての日食委員会記録と礼文島日食再検討—	日江井榮二郎・相馬充	702
	〈2019 年天体発見功労賞〉 私の星への思いと、新天体発見の歩み	西山浩一	713
シリーズ：天文学者たちの昭和	海部宣男氏ロングインタビュー 第 8 回：すばる望遠鏡（中編）	高橋慶太郎	719
雑 報	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>East-Asia AGN Workshop</i>	登口暁	731
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>Linking galaxies from the epoch of initial star formation to today</i>	鈴木智子	733
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>Exploring the Infrared Universe: The Promise of SPICA</i>	馬場俊介	734
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>Supernova Remnants II: An Odyssey in Space after Stellar death</i>	春日知明	736
	2019 年度 博士・修士論文 タイトル一覧		738
寄贈図書			747
月報だより			747

#### 【表紙画像説明】

次世代赤外線天文衛星 SPICA の、原稿執筆時点の最新の構成・形状。SPICA は、2014 年に ESA と行った検討で、Planck の経験を活かした横置き配置（衛星のサービスモジュールに対し、望遠鏡が横倒しとなる）での成立性が確認され、以来この構成で検討が進められてきたが、昨年来行われた検討の結果、2020 年 1 月に元の縦置き配置に戻るようになった。本図は、2020 年 4-6 月に行われた ESA の審査会に合わせて作成された最新の衛星構成図である。（ESA 提供）

#### 【表紙デザイン】

11 月号は月の様子です。11 月にぴったりの、神秘的でどこか冷たさを感じる月をイメージしました。